

府中市史編さんだより

第9号 令和2年(2020)7月21日



上空からみた日本製鋼所東京製作所周辺（昭和63年）

ふちゅう温故知新⑦

日鋼町（にっこうちょう）

昭和29年（1954）に府中町、多磨村、西府村が合併して府中市となりましたが、合併以前から煩雑だった地番の不便を解消しようと、同34年から41年にかけて町名の改正が行われました。日鋼町という町名は、旧府中町の小字である雨久保、番場裏、東原、拷掛場にあたる場所につけられ、昭和37年からその名で呼ばれています。なお、同時期に誕生した町名には分梅町、矢崎町、南町があります。この日鋼町という名称は、日本製鋼所東京製作所を含む地域であることから命名されましたが、その他に、柳町という町名も候補にあがりました。これは工場敷地内に柳の木と神社があったため提案された町名だそうです。

日鋼町の由来になった日本製鋼所東京製作所は、昭和13年に武蔵製作所として起工され、同15年から操業を開始しました。東京製作所と名を改めるのは昭和38年のことです。もともと軍需工場として中型戦車、そして中型高射砲を製造していましたが、戦後は米軍自動車の

修理工場であるビクターオート株式会社に接收され、その後民需生産への転換許可がおりると農機具や鍋釜の生産をするようになりました。その後は長期にわたってパワーショベルを中心とした製造が続けられましたが、昭和62年に操業を終えました。跡地は現在、府中インテリジェントパークとして整備されています。

日鋼団地は、昭和41年に入居が開始されました。日鋼団地は工場の西側を日本住宅公団が買収して整備した分譲住宅で全32棟、3DK、3LDKタイプがあり、都心で働くサラリーマンのベッドタウンとして本市が変化していく、その先駆的存在でした。府中市の人口は、昭和35年に82,098人（18,705世帯）、同42年に142,614人（38,547世帯）と、この頃に飛躍的な増加を遂げていきます。

（8ページのおもいででのふちゅう①「日鋼団地の小学生」も併せてご覧ください。）

『新 府中市史』新刊紹介

中世 資料編



新たな府中市史では、時代・分野ごとに資料を収集して資料編・報告書を刊行し、その成果に基づいて通史編を発行してまいります。このたび平安時代末、鎌倉時代、南北朝・室町時代、戦国時代に及ぶ「中世」の歴史資料を掲載した資料編を刊行しました。

第1章では、この時代の武蔵府中の出来事や、関係する出来事を直接記録した文献史料を全国的な規模で収集して、編年史料としました。さらに第2章では、猿渡氏、人見氏、津戸氏、由木氏などの府中との関わりが深い武蔵武士の史料、安養寺に伝えられた狸聖教などを特別編として編集し、最後の第3章では、武蔵国府関連遺跡の発掘調査などで見出された、中世に属する遺跡・遺構・遺物について紹介しています。

B5判 724頁 価格 2,000円

近世 資料編 上



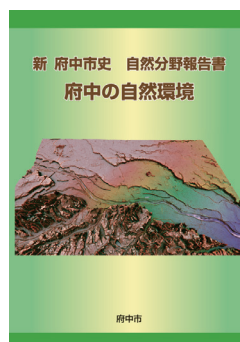
『新 府中市史 近世資料編 上』には、近世専門部会の各委員が協議して厳選した資料を収録しました。「第1章 家康の入国と府中」、「第2章 府中宿と伝馬役」、「第3章 宿場の暮らしと諸商売」、「第4章 府中宿と馬」で構成さ

れており、いずれのテーマも江戸時代の府中宿を理解するための重要な要素です。

このほか、本書収録資料の理解の一助とするため、「解説」と「史料で学ぶ府中の歴史」というページをそれぞれ設けました。前者は、本書収録資料全点の紹介と、そこからうかがえる府中の時期的特徴を簡単にまとめて説明しております。後者は本書収録の資料のうち3点を選んで、詳細な解説を付すとともに、文書写真および読み下し文も掲載しており、古文書の初学者に向けた入門書としても活用いただけます。

B5版 600頁 価格 2,000円

自然分野報告書 府中の自然環境



全5章にわたって府中の自然について報告しています。「第1章 大気」では、市内の詳細な気温分布を明らかにし、さらに江戸時代の日記から当時の気温変動を推論で導き出す試みをしています。また、近年の大気汚染の状況の変化について触れ、さらに、大気汚染度を夜空の透明度の観点から測定した結果をまとめました。「第2章 水」では、多摩川と市内の湧水の状況について、「第3章 大地」では、浅間山を代表とする市内の特徴的な地形と全体の地層の成り立ちについて、「第4章 植物」では、市内の植物の移り変わりや植物群落について、「第5章 動物」では、市内の蝶類と哺乳類についてまとめました。

A4版 218頁 1,000円



本書は、若松町と本町の家庭に保管されてきた家計簿などをもとに、聞き書き調査や文献調査の内容をまとめたものです。若松町の河内家からは昭和 8 年から 11 年の支出を記入した家計簿、本町の石川家からは同 46 年、47 年の買い物メモという、いずれも貴重な資料を提供していただきました。今では売られていないもの、昔からあったものが見え、当時の生活の一端を知ってもらえることができると思います。イラストや写真などを多数掲載して、同時代を生きた人はもちろん、当時を知らない世代の人たちにも理解を深められる内容としました。

A4 版 218 頁 1,000 円



川原健太郎「府中における社会人ラグビーチームの創設と展開ー東芝ブレイブルーパスとサントリーサンゴリアスを対象としてー」/ 新井勝紘「五日市憲法」は府中が出発点だったー五日市憲法発見 50 年をふりかえってー」/ 伊香俊哉「戦時期府中の市民生活」/ 中里亮平「拡大する祭礼ー外部との関係性からみたくらやみ祭ー」/ 英太郎「府中市東部を南北に縦貫する「鶴川街道」と呼ばれる道をめぐって」/ 今野耕作「新元号「令和」と武蔵国司の関わり」/ 小林謙一ほか「府中市内出土縄文中期土器の文様割付」

A4 版 106 頁 500 円

市史刊行物は次の場所で頒布しています。ふるさと府中歴史館（3 階）、市民相談室（市役所 1 階）、市政情報センター（ル・シーニュ 5 階）、郷土の森博物館、観光情報センター

報告書を手にして

ここでは『民俗分野報告書（二） 書きとめられた日常』の関係者のコメントを紹介します。

河内進一郎さんのコメント



河内進一郎さんご夫妻

叔父や父の若い時に記録していた資料が、このように『新 府中市史』として本が出版されたことに対し深く御礼申し上げます。先人の行動・活躍を知ることにより、我々は今後の生活

に活かしていけたらと思うものです。叔父は将来の生活を考え、最終的にはカナダの地で骨を埋めました。その若かりし日に記録していた資料が、このように世に出るとは思っていなかったと思います。出版された本を早速バンクーバーに在住している従姉妹に贈ってあげたいと思います。年をとるにつれ時間に余裕ができ、自分の先祖のことを知りたくなってきました。父は自分の余生でいろいろ整理せずになくなった為、沢山の資料が残っているのが現状です。これからは、自分の過去を含め整理し、子供に河内家の歴史を伝えていきたいと思います。

石川裕三さんのコメント



石川裕三さん

母がこのような買い物メモや家計簿をつけていたことに驚きました。身内のことですが、「すごい、立派だ」というのが率直な感想です。あれだけ忙しかったのに、よく習慣づけていたと思います。母の姿を見ていたのか、結婚当初家計簿をつけていなかった妻も、今では買い物をするとき必ず家計簿をつけています。現在、妻が買い物をするのも府中駅周辺が多く、こうしてみるとかつて母が買い物をしていた範囲とあまり変わりません。私は高校生になると部活で遠征するようになり、行動範囲が東京都下全域になりました。買い物はお店の数が多かったこともあり、特に吉祥寺によく行きました。でも、やはり府中がいちばん好きな街ですね。

あの頃と比べると府中はずいぶん変わりました。報告書を見た息子からも「昔はこんなだったんだ」という声が聞かれました。当たり前だった生活も、改めてふりかえると大きな変化を感じることができるのですね。

土居浩委員のコメント

完成のご報告を直接申しあげたいと願いつつ、コロナ禍のため、都内への移動自粛を余儀なくされ続けております。恐縮ですがこの場を借りて、関係各位のみなさまにお礼申し上げます。

最近の流行語「不要不急」が耳目に触れる度に、一見すると「不要不急」のモノを資料として読み解いたのが今回の作業だった、と報告書を顧みております。紹介した「家庭経済帳」は、元々『漢字帳』と題されたノートの一部で、漢字練習して余ったページに書き込んだ、と思われそうですが、その帳面表紙に書かれた人物の家ではなく、その兄の家に伝えられたこと自体、と

ても不思議な縁を感じさせます。

「火急」ではないにせよ資料として「重要」なモノが、地域における日常の一端を浮き彫りにしてくれました。このような資料となる可能性のあるモノが、「不要不急」の掛け声で処分されないように、希望するところです。

及川祥平委員のコメント

私が担当したのは石川裕三さん宅の買い物メモをもとに、昭和の家庭生活をすこしでも記録にとどめる作業でした。こうした内容は、当時のことを知る皆さんにとって、あまりにも「当たり前」なことばかりかもしれません。しかし、私の専攻する民俗学にとっては、特殊で珍しいことよりも、日常のありふれた現実こそ、記録にとどめる価値があります。

毎日どんなものを食べていたのか、なにを着て、どのようなお家に暮らしていたのか。なにが楽しく、なにが辛かったのか。ご家族はどのような人たちだったのか。「当たり前なもの」は、まさに「当たり前」であるがために記録にとどめられず、時間の経過とともにわからなくなってしまう。

市民の皆さんの日常の記録や思い出話は、市史編さん（民俗専門部会）にとって最重要の資料です。今後も、たくさんの方にこうしたお話をうかがうチャンスをいただければ幸いです。ご協力のほど、宜しく願いいたします。



府中市内の年末の買い物風景（昭和 45 年）

府中市刊行ボランティア・府中市観光協会・市史編さん協働企画講演会

「中世府中の人と道」開催

令和2年2月15日（土）午後、大國魂神社結婚式場に於いて、市史編さん事業と観光事業の協働企画による講演会を開催しました。

府中市観光ボランティア・府中市観光協会・市史編さん協働企画講演会

鎌倉から戦国時代にかけて、私たちのまちは「武蔵府中」と呼ばれ、その中心には武蔵の道筋から発展する府中（現在の大國魂神社）が鎮座し、周囲には人々が活発に往来する道筋がいくつもありました。講演会では府中市史編さん事業の最新成果を取り入れて、この時代の歴史から学び、知れざる府中の歴史の魅力を再発見したいと考えています。

中世府中の人と道

令和2年2月15日（土） 13:00～16:00

大國魂神社結婚式場 2階 樺・桂の間（府中市宮町3-1）

第1部 午後1時10分～「戦国大名と武蔵六所宮」

講師 清水 克行 氏（明治大学商学部教授・府中市史中世専門部会副会長）
中世の人々にとって神さまや神社はどのような存在だったのでしょうか。名だたる戦国大名であった上杉謙信や北条氏康が武蔵六所宮に対してとった行動を分析し、当時の人々が神さまや神社についてどのように考えていたのか、市史編さんの最新調査成果も活用して紹介させていただきます。

第2部 午後2時40分～「多摩と府中の中世古道探訪」

講師 宮田 太郎 氏（歴史古街道団代表・総務省地域力創造アドバイザー）
中世の人々は府中のどこを歩いていたのでしょうか。多摩地区や府中市内に残っている中世の古道の道筋を紹介していただくとともに、古道の楽しみ方や魅力をわかりやすく伝授していただきます。各地の歴史遺産を舞台に講師が主宰されてきた、楽しい歴史再現イベントについても紹介していただきます。

定員 200人（先着）
※ お申込みが必要です。

申込み方法（氏名・参加人数をお知らせください）
電話もしくはメールにてお申し込みください。
電話番号：042-302-2000（府中市観光情報センター）
メール：fkc2@fkc.com.home.ne.jp お申込みはこちらから
申込期限：2020年2月14日（金）定員になり次第締め切り。
※ 個人情報は、本申込み以外には使用しません。

お問合せ 特定非営利活動法人 府中観光協会
TEL 042-302-2008

主催 府中市観光ボランティアの会・府中観光協会
府中市（経済観光課・ふるさと文化財課市史編さん担当）
後援 大國魂神社



清水克行先生

第2部の講演では、中世の道筋がどのようなルートで府中に到達していたと推定できるのか、また現在の多摩市から町田市にかけての多摩丘陵において、鎌倉と府中を結んでいた道筋がいまも痕跡として残っていることなどを、映像で紹介しながらお話し頂きました。また宮田先生が自らの足で踏査された成果を凝縮した詳細な地図には、多くの参加者の関心が集まりました。



宮田太郎先生

当日は217人ものご参加があり、清水・宮田両先生には講演後の質疑応答にもご協力頂いて、大変意義のある講演会になりました。また講演の様子は、ケーブルテレビJ:COMのデイリーニュースでも取り上げて頂きました。

原始・古代専門部会

考古分野会では、武蔵国府の時代の考古資料を収録する『考古資料 2』の作成を進めています。1800 箇所を超える市内遺跡の調査箇所から発掘された竪穴建物跡などの遺構や、土器など出土遺物の図面・写真を集成し編集を行っています。

文献分野会では、原始・古代通史編作成に向けて目次構成の検討を行っています。今年度からいよいよ原稿の執筆、編集に取り組みます。部会開催 3 回。



原始・古代専門部会の調査風景

中世専門部会

昨秋以来、中世専門部会では、おもに中世資料編の刊行に向けた活動をしてきました。特に、原稿の執筆、掲載する図表の作成に全力を傾注しました。正確性を期すため慎重に校正作業を進めてきましたが、その最終段階において新型コロナウイルスの世界規模の感染拡大という思わぬ事態が発生してしまいました。思うように会議が開催できなくなるなど、編集作業に

も深刻な影響が出ましたが、無事、資料編を刊行することができました。また 2 月 15 日には、市の観光事業と協働して講演会「中世府中の人と道」を開催しました。3 月中にも講演会開催を予定していましたが、こちらは感染拡大防止のため延期させていただきました。部会開催 4 回。

近世専門部会

『新 府中市史 近世資料編 上』を刊行することができました。本書刊行にあたり、部会委員・協力員の方々をはじめ、市内外の資料所蔵者様や各関係機関の皆様には大変お世話になりました。おかげさまで本書は、江戸時代の府中宿を考える上で今後欠かすことができない一冊となりました。ぜひご一読いただければと思います。このほか、市川閲子氏・市川千秋氏・市川仁氏各家の古文書の解説・整理作業を行いました。この調査成果は来年 3 月に古文書目録として刊行する予定です。部会開催 5 回。

近・現代専門部会

今年度刊行予定の資料編に向けて、府中市郷土の森博物館をはじめ市内外の施設に所蔵されている資料の調査と、筆耕作業を進めております。市民の皆さまからも貴重な資料の紹介や提供をいただき、戦中・戦後から現代にかけての府中の様子がわかる資料が充実してまいりました。さらに、府中市に拠点を置いて活動している東芝ラグビーチームに引き続き協力をいただき、ブレイブルーパス府中ジュニアラグビーフットボールクラブの現地調査や、府中で生まれ育った現役の森太志選手にインタビュー調査を行いました。部会開催 2 回。

自然専門部会

昨年は、『新 府中市史 自然分野報告書』を作ることが主たる活動となりました。

専門部会の委員の皆様には原稿を執筆していただき、度重なる編集・校正を経て、無事納品の運びとなりました。

その内容は市史編さん事業がスタートしてから、自然分野の研究者の方々が地道に調査・研究してきた成果を大気・水・大地・植物・動物の 5 分野に分け、まとめたものです。

本書の作成にあたり、大勢の方にご協力いただき、ここまで漕ぎつけることができました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

今年度からは、通史編に向けて報告書で不足している調査を追加実施し、より充実した内容を目指していきます。部会開催2回。

民俗専門部会

報告書刊行のために執筆内容の検討や追加調査を行いました。報告書に掲載した資料を提供して下さったお宅では、さらに追加でさまざまな資料を見せていただきました。こうした資料には、すぐには報告書に反映できない内容のものもありましたが、今後本編を執筆する上で、大事な資料として位置づけ、活用させていただきます。

市内在住・関係のみなさま、引き続き紙・モノ・人間わず、府中市内の貴重な資料がありました

らぜひお知らせください。特に古写真と印刷物などの紙資料を探しています。部会開催1回。

考古・美術工芸専門部会

本部会における『新 府中市史』刊行までのスケジュール、内容、担当などの確認、協議をおこないました。様々な文化財のなかでも、考古、彫刻、工芸、絵画分野の作品資料を中心に進めていきたいと思っています。

絵画分野では、府中市美術館秋季展覧会『おかえり「美しき明治」』展の視察をしました。当時の市内を描いた作品も多数出品されており、資料としての近代絵画について理解を深めました。

彫刻分野では、大國魂神社のご協力をいただき、同神社で所蔵の彫刻作品の調査・撮影をおこないました。部会開催2回。

市史編さんの活動記録（令和元年10月～令和2年3月）

前号以降

～3月 6日 原始・古代地図製作

10月 1日 自然部会

3日 考古・美術工芸部会

5日・6日 ラグビーイングランドウィークで
刊行物を頒布

10日 市史編さん審議会

14日 中世部会

18日 国立国会図書館資料調査（近現代）

22日 近世部会

23日 市史編集委員会

25日 原始・古代文献分野会

11月 6日 国立国会図書館資料調査（近現代）

8日 郷土の森博物館資料調査（近世、
近現代）、原始・古代分野会

17日 中世部会

22日 原始・古代・文献分野会

27日 考古・美術工芸部会、近世部会

12月 2日 近現代部会

3日 自然部会

6日 原始・古代考古分野会

1月 13日 中世部会

17日 市史編さん室史料調査（近現代）

19日 ブレイブルーパス府中ジュニアラ

グビーフットボールクラブインタ
ビュー調査（近現代）

21日 調布市公文書資料室資料調査（近
現代）

2月 5日 郷土の森博物館資料調査（近世）、
大國魂神社調査（考古・美術工芸）

6日 市史審議会、東芝ラグビー部森太
志選手インタビュー調査（近現
代）、大國魂神社調査（考古・美
術工芸）

9日 中世部会

13日 郷土の森博物館資料調査（近世）

14日 近世部会

15日 講演会「中世府中の人と道」

19日 郷土の森博物館資料調査（近現代）

27日 民俗部会、原始・古代考古調整会

3月 3日 郷土の森博物館資料調査（近現代）

4日 中世分野調整会

5日 郷土の森博物館資料調査（近世）

11日 郷土の森博物館資料調査（近現代）

19日 郷土の森博物館資料調査（近現代）

25日 中世部会

